

こんにちは。25歳の かいでん 和弘 と申します。
「目黒の未来に、無責任でありたくない」
—この決意のもと、無所属・最年少で活動しております。
本リーフレットに、自己紹介と自分の思いをまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。
ぜひお力添えくださいますよう、お願い申し上げます。

北 海道大学を卒業して地元である目黒に戻ってきてから私は、行政計画の策定を行うコンサルティング会社に就職しました。

担当したのは、神奈川県、静岡県、群馬県、新潟県など、東京から少し離れた地方の自治体。

“地域のこれから”について、現地で役所や住民の方々と一緒に考えるなかで、数々の厳しい現実^カに遭遇しました。

入学者数が30年前の4分の1に激減した小学校
人影がなく、潰れた商店と傾いた看板が目立つ駅前通り
若者が離れゆき、人口の半分が高齢者になった町と村

私が目にした現実^カは、目黒区に住む私たちにとっても全く他人事ではありません。

いずれ目黒区にも、高齢化、現役世代の人口減少と財政難により、高負担・低福祉の厳しい時代が訪れるでしょう。

それなのにそんな厳しい時代の目黒区を支えていく当事者となるはずの若い世代は多くの方が区政に関われていませんし、関わろうともしていません。

若者の区政に対する関心や投票率は低く、区議会議員36人の中に20代議員はゼロ。

果たして、これでいいのでしょうか。

20・30代の私たちが区政を白紙委任して、数十年後に中心世代としてバトンを渡されたとき、自分たちの無関心の末に行きついた未来に責任を持てるのでしょうか。

少なくとも私は、そんな未来は望みません。

みんなの未来、若い世代も意思表示しましょう。

その思いから、私は動きます。

目黒の未来に、無責任でありたくない。

目黒の未来に、
無責任でありたくない!

無所属

かいでん 和弘
田 改

大志を胸に、25歳。

趣味
行動指針

チェロ演奏、剣道(2段)、野球観戦、水泳、歴史研究
為せば成る 為さねば成らぬ 何事も成らぬは人の 為さぬなりけり

活動報告や考えたことを発信中です。友達申請や“いいね! ”、メッセージをお寄せください。



プロフィール

1993年 11月23日生まれ(3人きょうだいの長男)

2000年 目黒区立原町小学校 入学

- 原町学童保育クラブに3年間在籍。
- 教室にあった『ジョン・F・ケネディ』(アメリカ大統領)の伝記を読み感動。彼の生涯を通しての“懸命さ”に憧れを抱き、その“最期”に涙する。

2006年 都立桜修館中等教育学校(旧・都立大学附属高校) 入学

- 目黒区八雲に新設された同校に1期生として入学。
- 学校に隣接する八雲中央図書館で歴史小説(司馬遼太郎、宮城谷昌光など)を読み漁る。古代中国の為政者たちの、潔い姿を見て、「政治家とはかくあるべし」と思いを致す。
- 自治会長を務め、桜修館の学校説明会や都立大学附属高校の閉校記念式典で演説。

2012年

入学

北海道大学 法学部 入学

- 初代教頭・クラーク博士の「少年よ、大志を抱け」の言葉を胸に、法律と政治を学ぶ。
- 大学オーケストラでチェロを演奏、楽団初の学生指揮者も務める。

卒業

2016年

まちづくりコンサルティング会社 就職

- アンケート調査や住民座談会(ワークショップ)などを通して、行政計画の策定に携わる。(介護保険、子育て、障がい者福祉、健康増進、教育分野など)
- 地方部から日本が活気を失っていく姿を見ながら、「もっと自分にできることはないのか」と自問自答。

2018年

「自分たちの未来に、無責任でありたくない」、その思いから意を決して退社し、政治活動を開始。

目黒区も、変わらないといけない。



目黒区の問題点 ①

次の世代へつながらない

出生率

一人の女性が一生で出産する子どもの数

目黒区 **1.07人** (2017年)
都平均 1.21人 国平均 1.43人

2人の夫婦から1.07人の子どもでは、今の社会制度を維持できません。

目黒区の問題点 ②

仕事と子育ての両立が困難

待機児童

ワースト8位

330人 (2018年) 全国1,741市区町村

保育施設に入れないと…
育休の延長や退職を強いられることも
キャリアか子どもかの二者択一。これでは
子どもが欲しくても難しいのが現実。

**30年後、
こう変わる**

(2018年推計)

日本 **人口減少**

30年間で2,000万人減少

一方…

目黒区 **人口増加**

30年間で2万人以上増加

0～4歳 維持→

5～19歳 増加↗

20～29歳 維持→

30～49歳 減少↘

50～59歳 増加↗のち減少↘

60歳～ **大幅増加↗**

目黒区の問題点 ③

区政と若い世代との距離が遠い

区政への関心

10代・20代は**3人に2人**が関心なし (2017年)

区議選投票率

20代は**20.90%** (2015年)

めぐろ区報

10代・20代は**10人に1人**しか見ていない (2017年)

目黒区の問題点 ④

介護予防の取り組みが一層必要

高齢者数

今後30年間で約**1万9千人**増加

特別養護老人ホーム 待機者

890人(施設数が足りていません！)

できるだけ長く健康に暮らしていくための
介護予防が必要です。

こんな

目黒

をつくりたい



若い世代も区政へ参画

「目黒の未来は自分たちでつくろう」

★「若者の声も聞いてください！」

- 「政治なんて私たちには関係ないよね」
- 「目黒区は一体、どんなことをやっているの？」

▶▶ 若者向けアンケート・座談会の実施

▶▶ 区立小・中学校での**主権者教育**

▶▶ 広報「めぐろ区報」の充実



子育て施策の充実

「次の世代はみんなで育てる」

★「子育てと仕事、両立させたい！」

- 「子どものインフルで会社を休まなきゃ…」
- 「保育園のお迎えに間に合わない！」

▶▶ 待機児童（保育園&学童）の解消

▶▶ インフルエンザワクチンへの補助

▶▶ ファミリー・サポート事業の拡充



ご高齢の方の活動場所の充実

「手ごたえのある日々を、目黒区で」

★「まだ働けるのになぁ…」

- 「毎日家にいても張り合いがないなぁ」
- 「週3回プールに行きたいけど、高いなぁ」

▶▶ ポイント付き**ボランティア**の推進

▶▶ **生涯学習・サークル活動**の応援

▶▶ 区営スポーツ施設の**継続利用割引**

